

サービスニュース
(川崎電動油圧舵取機)
KAWASAKI ELECTRO-HYDRAULIC STEERING GEAR
SERVICE NEWS

発行日：2026 年 7 月 16 日
 書類番号：E8-25-001

件名：

LVP017 油圧ポンプ完成品の交換推奨

1. 舵取機用油圧ポンプの型式について

当社では 2 種類の油圧ポンプを提供しており、LV シリーズは大型舵取機用、LVP017 は小型舵取機用です。
 各ポンプの断面図を図 1 および図 2 に示します。

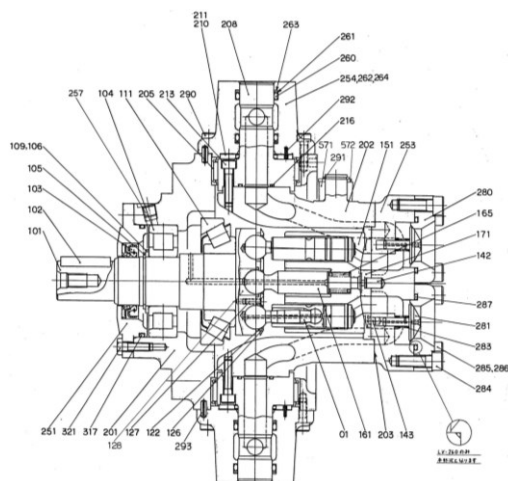


図 1：組立断面図（LV シリーズ）

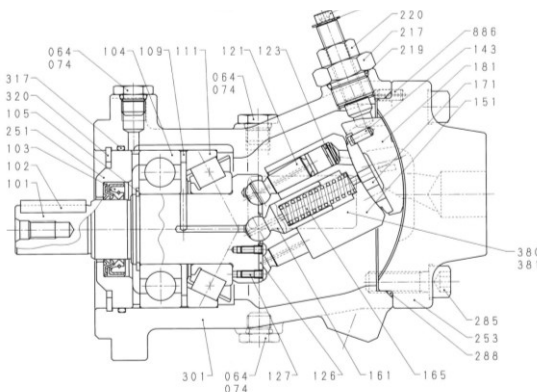


図 2：組立断面図（LVP017）

2. オイルシール交換手順の違い

油圧ポンプを長期間使用すると、オイルシールのリップ部と接触する駆動軸の表面が摩耗し、その結果、油漏れが発生する可能性があります。

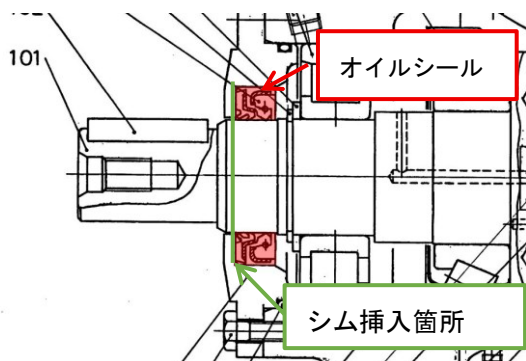


図 3：オイルシール部詳細（LV シリーズ）

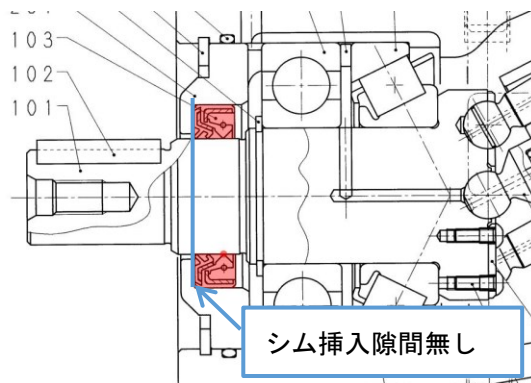


図 4：オイルシール部詳細（LVP-17）

川崎重工業株式会社
 精密機械・ロボットカンパニー 精密機械ディビジョン
 サービス部
 KAWASAKI HEAVY INDUSTRIES, LTD.
 PRECISION MACHINERY BUSINESS DEVISION
 CUSTOMER SERVICE DEPARTMENT

このため、LV シリーズの開放整備時には、オイルシールを交換するとともに、図 3 の緑線で示した位置にシムを挿入し、オイルシールと駆動軸の接触位置を変更しています。これにより、駆動軸が摩耗していない部分でシールさせることが可能になります。ただし、ポンプ内部の寸法上、この処置を実施できるのは 1 回のみです。一方、LVP017 ではシムを挿入するためのスペースがないため、オイルシールの位置を変更することができません（図 4 参照）。

3. オイルシール位置を変更できないことによる問題

オイルシールの位置を変更できないまま交換を行うと、新しいオイルシールは駆動軸の摩耗した部分と接触することになります。その結果、開放整備を実施した後であっても、油漏れが再発するリスクが高い状態となります。

4. LVP017 油圧ポンプの整備に関する当社の推奨事項

上記の理由により、小型舵取機の整備を実施する際には、LVP017 油圧ポンプ完成品での交換を推奨いたします。